

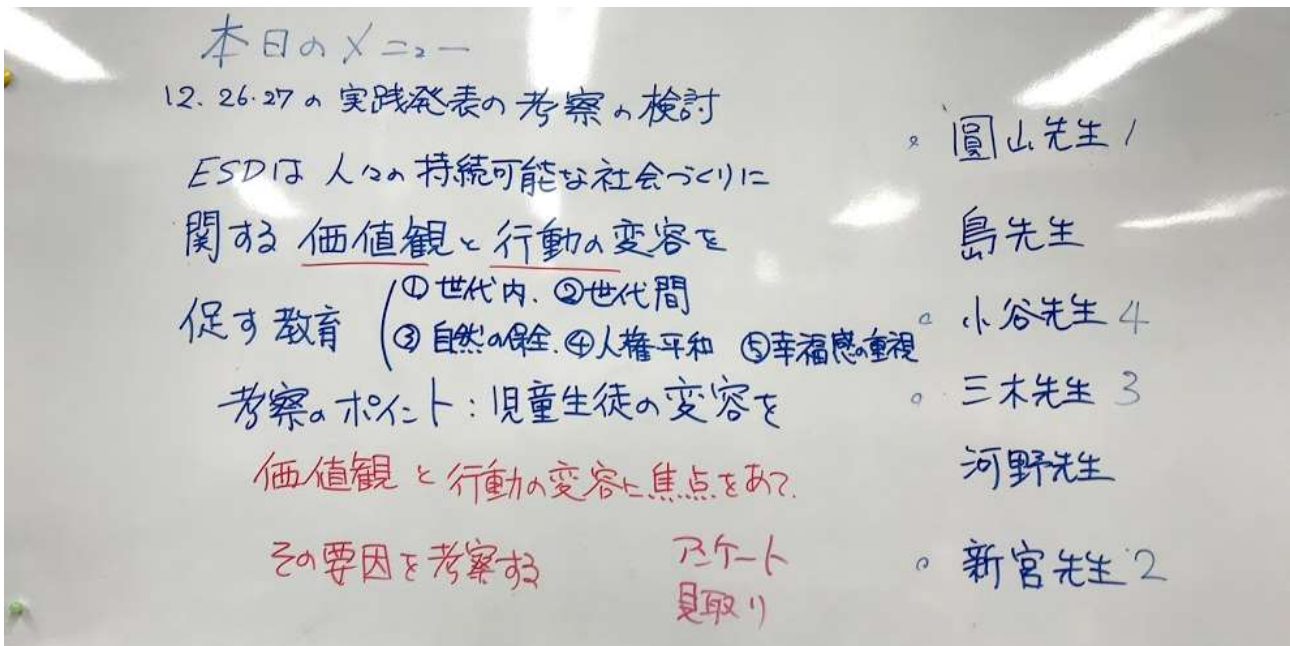
第9回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年12月5日(木) 19時~22時
- ◇会場 次世代教員養成センター多目的ホール
- ◇参加者 三木(都跡小)、圓山(飛鳥小)、小谷・中澤哲(平群北小)、新宮(平城小)
近藤(生物多様性センター)、中澤敦(近畿地方ESD活動支援センター)
河野(附属小)、樋口(平城西小)
山之内・奥平・東尾・仲村・坂本(学生)
北村・中澤(奈良教育大学) 計16名

◇内容

近畿ESDコンソーシアム実践交流会での発表実践の考察を検討する。



1. 「こうえんはかせになろう！」小学2年生生活科：圓山先生の実践

(1) 行政と地域の連携

- ・タイヤ公園のタイヤから自治会→公園緑地課→タイヤの撤去→自分たち→自治会→公園緑地課→新しいタイヤのつながりに気づいた。システムズシンキングの基礎が養われた。
- ・調べることで多様な公園に気づくことができた。

(2) 対話的で深い学び

- ・「調べる→共有する」の繰り返しによる対話の場面の重視
- ・理由をつけて話す児童が増えた

(3) 児童の変容

自分たちにできることを考える場面では、ゴミ拾いや草刈りなど、書いていた → SDGs 11

世代内の公正

(4) 見方・考え方の育成

- ・「木が多いからステキ」に対して「なぜ、木がおおかったらステキなのか？」と問い返すことで見方が育っていった。それを交流し



たことで、共有できた。

(5) 教材化について

- ・身近であっても実は見えていないものを可視化した価値。

2. 「秋篠川のめぐみを未来へ」 小学4年生総合的な学習：新宮先生の実践

(1) 秋篠川への興味の喚起

秋篠川観を比較して表す

秋篠川の水質調査と吉野川の比較

秋篠川の役割への気づき ← 源流館の展示物より吉野川の役割を知り、それを転移できた。

地域の人々、農家へのインタビュー調査を通して

ゴミの問題から切実感へ

(2) 責任性の育成

ビデオ映像の活用から川ゴミへの切実感の育成

責任感のある大人との関わりから責任感を育成した

ゴミの分別など、科学的視点を記す。

(3) 行動化

自分たちにできることを真剣に考え発言していた ← 大人の営みへのあこがれ

私が行動して、誰かに訴える、という声が多かった。消費者としての行動の変容を引き出すといい。

(4) コーディネーターとしての教員

多くの関係者の授業への参加 日ごろの関係性の構築

G Tに丸投げせず、G Tを編んで授業を作っていくのは教員の役割

3. 「奈良筆」 小学3年生社会科：三木先生の実践

「つくる側・職人さん」「売る側・地元の店」「使う側・薬師寺の方」
のつながりに着目させて学習を展開した。

よいものを作りたい・使りたい 「思い」を残していきたい

作っている人と使っている人の思いは一致している

文化を伝えるために、作る側・売る側・使う側が貢献できる

奈良筆を使うことは、経済・環境にも良い影響がある。

文化・経済・環境の持続可能性を考えさせる

行動化

奈良筆は①長く使うことができるもの、②大事につかっているもの

都跡小学校に長くあるものを教室に持ち込んで、長く使うことの価値を考えさせる

ポスターで見える可する。

消費行動を見直させる。プレゼンをさせる。



4. 「せかいのはてまで」 小学校1年生道徳：小谷先生の実践

セネガルの暮らしと日本の暮らしの共通点を見出すことができた。

折り紙を贈った。



地図でセネガルを見つけたり、セネガルの国旗を見つけたりするようになった。

ナイジェリアの友達への声掛けが1ランク上がった。壁を取り除くことから、多文化を尊重するよう

になった。(という行動があればいい)。

子どもの視野が広がった。世界への関心が高まったのではないか。

経済的な豊かさではなく、人間的な豊かさへ

の気づきがあった。(人権・文化の尊重)

言葉がなくても通じ合えることがわかる体験だった。

SDGsの目標10、16に関係している。

5. 「外来生物」 小学3年生理科：島先生の実践

- (1) 批判的な考え方 外来生物の問題はヒトによって引き起こされた
- (2) 多面的・総合的な考え方 外来生物の問題をグローバル化ととらえる
- (3) つながり尊重する 生物多様性の保全を重要視する
- (4) 見方・考え方

多様性：外来生物に関する知識が増えた

相互性：人間によって移動させられた

責任性：自分たちにもできることがあるんじゃないか

- ・子どもの変容がわかりやすい(前後の比較)
- ・保護したいという意見はいいが、行動化は難しいのでは。
- ・生物多様性の保全 マイ行動宣言を参照して

6. 「明治の国づくりをすすめた人々」 小学校6年生社会科：河野先生の実践

明治時代の捉え直し

江戸時代の画一的な考え方が多様になった 多様性

西洋化の推進 日本文化の衰退

文化について考えさせる授業にしたい

- ・ペリーの見方：悪い印象
- ・15年後には海外文化を受け入れるように その変容の原因は何か
- ・日本らしくなくなってしまったなあ。日本文化に対する自信を失っていた？
- ・日本文化について考える機会に

いわゆる日本文化、日本らしさは江戸時代のもの

日本文化の中の時間的多様性

それでも残った日本文化 食文化 でもそれが失われつつある

海外文化を受け入れたことでよりよい文化への展開は？

日本文化に対する子どものイメージの変化

西洋化しているが日本文化も